

舞台は世界だ!

Go! Global

KANTO GAKUIN MUTSUURA
JUNIOR&SENIOR HIGH SCHOOL

Cambodia

2017 KGM
グローバル人材
育成プログラム
レポート Vol.10



ますます進むグローバル化は、加速するボーダーレス化とも言えます。中高一貫校での6年間は、入学から10年後、さらには20年後の社会を見据えて準備する大切な時と場です。ボーダーレスに向かう社会を早期に意識し体験する学習環境づくり。関東学院六浦は60周年を迎えた今、「若く純粋な想いを道へ.....将来を世界に繋ぐこと」が新たな使命と考えています。

カンボジア サービス・ラーニング 研修



カンボジアでの授業の様子



「幸せとは何か」を考えるきっかけになったことです。「便利なのが本当に幸せなのか」「あの笑顔は日本では見られない」「日本の子どもとカンボジアの子どもと何が違うのか」「カンボジアがこれからはどんどん発展して皆がスマートフォンを持つようになったら、今あるコミュニケーションの機会も減ってしまうのではないかなど意見が次々と上がったこと、一人ひとりがこの研修を通して考える機会を持ったことは大きな収穫でした。旅程はたったの一週間ですが、その前後の活動を共に行ったこと、炎天下、大汗をかきながら一緒に走り回ったこと、一緒にごはんを食べたこと、カンボジアの悲しい歴史と一緒に見学したことは今でも鮮明に思い出されます。彼らが日ごとに大きく成長している姿に立ち会えたことは私にとっても大変嬉しい一週間でした。今後、若い彼らが自らの生き方と正面から向き合う日が来るでしょう。その時こそ、この研修で得た体験が本領を発揮するものと心から期待します。

(引率教員 中村優子)



カンボジアの子どもたち

第3回カンボジア サービス・ラーニング研修に、中学生7名、高校生1名と共に参加しました。自発的に参加を希望した、志の高い彼らと行くカンボジアの旅は大変楽しいものでした。

本番の12月下旬に向け準備は11月初旬から開始。朝礼拝での献金・献品の呼びかけ、寒い中での受付立ち番、多方面に交渉に出かけての献品回収など、開始当初から彼らの積極性、労を惜しまない姿勢には驚かされました。

事前学習は、充実していました。カンボジアの歴史の学習とグメール語会話講座です。昨年度参加した生徒の一人がカンボジアの歴史を学び、パワーポイントにまとめ、授業を行いました。会話講座は、カンボジアからの留学生の協力を得て、NHK外国語講座さながらの練習を行いました。この学習も生徒主体で行われたことです。

現地では教育ボランティアを行います。その一つを生徒の発案により理科実験を行うことになりました。放課後、早々に日の暮れた中庭での実験練習。みんなで寒さと反応の激しさにドキドキ震えながら行いました。「使う材料は触っても安全か」「空港の税関を問題なく通過できるか」など、

しもこんなことがあったらどうするかを思いつく限り挙げ、必死で対応策を考えます。生徒たちは「こうしたらどう?」「この方法は適さないのでは?」など活発に意見を出し合いました。

今回もたくさんの献品をいただきました。嬉しい悲鳴を上げつつ、仕分け、梱包作業を行います。行き先での作業を考えた梱包、カンボジアの子どもたちが喜んでくれるかを考えながらの荷造りは楽しく、最もやりがいを感じる瞬間でした。

事前学習も実験練習も荷造りも、限られた活動日の中、毎回下校時刻ぎりぎりまで活動しました。その甲斐あって、現地での教育ボランティア、交流は大変有意義なものでした。当初は遠慮がちに振る舞っていた生徒たちも、日を追うごとに現地スタッフや子どもたちと身振り手振りを交え、時には多少通じる英語を「駆使」し、交流を図りました。毎晩ミーティングを開き、一日の反省を挙げ、翌日の活動へ生かす、まさにこの機会でしか学べない事柄に多く触れられたことと思います。

研修から戻ってからは、参加者で座談会を行い、一連の活動を振り返り、次年度への反省・引き継ぎについて意見を述べ合いました。印象的だったのは



小学校での理科実験

カンボジアで感じた「本当の豊かさとは?」

飛行機から降りた。蒸し暑かった。ただの蒸し暑さではない、懐かしい蒸し暑さである。

2回目のカンボジア研修。今年の交流プログラムの一つに「KGM SCIENCE LABO」と題した化学実験教室があった。カンボジアでは理科の授業こそあるが、実験はほとんどしないとのこと。化学部でいつも実験をしている僕は、化学実験の面白さを知ってもらいたいという願いがあり提案したところ、交流プログラムの1つに決まった。実験内容は「フィルムケースロケット」「空気砲」「スライム」の3種類だった。日本で実験に必要な道具や薬品をそろえ、ちょうどカンボジアから日本に来ていた留学生で化学部に入っていたソックリンさんに実験の内容をグメール語に翻訳してもらい、説明書きの模造紙を作った。それでも実験には失敗が付きものだ。化学実験はキエンスワイの中学校とタケオの小学校で行ったが、中学校では日本とは環境の異なる風通しの良い教室での実験ということ、そして水溶液の濃度調節が難しかったことから、成功とは言い難かった。その反省を踏まえ改良した結果、次に行った小学校では見事成功した。無事、カンボジアの子供たちに実験を体験してもらうことが出来、良かったと思う。

ところで、カンボジアから日本に帰りつつ疑問が浮かんだ。「日本とカンボジアではどちらが先進国だろうか」と。日本は戦後の高度経済成長期などを経て、現在先進国と呼ばれる国々の一員となっている。その街並みの輝きや見事に発達した都市を見れば、日本が先進国であることは一目瞭然だ。GDPなどの数値からもそれは見て取れる。

しかし、日本の発展した都市で暮らす私たちとカンボジアの村で暮らす子供たち、どちらが本当に豊かだろうか?例えば、通勤。カンボジアでは本来1人乗りのバイクに3人乗り4人乗りで通勤している人々がよく見受けられた。その人たちはマイクローバスに乗っている私たちを見つけては微笑んでくれたりした。それ以外にも同乗している友人と笑顔で会話したりしていた。それに対して日本の通勤風景といえどどうだろうか?無表情で駅のホームに立ち、スマートフォンや新聞に目を落とし、電車が来れば吸い込まれるように乗る。友人と一緒にいる人でも、視線はスマートフォンにある人が多い。先日受けた国語の実力試験にこんな文章があった。「スーパーマーケットやコンビニエンス・ストアでは誰とも会話せずに買い物ができる。銀行までが、誰とも会わず、誰とも話さずに事が足りるようになってきている。それを自慢げに宣伝しているところもある。」確かに先進国日本では人件費削減だとか時間短縮だとかの理由から、人が人と向き合い目と目を合わせて会話する時間は無駄なものとして削ってゆき、コミュニケーションがなくなっているような気がする。対してカンボジアはどうだろうか?市場では値札が掲げられていないので値段を知るためだけでもコミュニケーションが生まれる。商品について、売り手が買い手に良いところを伝えつつ、買い手が売り手に希望の価格を言い交渉をしていく。東南アジア独特といってもいい雰囲気だ。

果たして我々人類がこの先進むべきは、現在先進国と呼ばれていく国々の、人が人と向き合い目

と目を合わせて会話することのない社会なのだろうか。人は機械に支えられ、人と人との関係は次第に疎かになっていくだろう。もし関係があったとしてもインターネットの掲示板やSNSなどのツールを通した関係が主流になってしまうように思える。

こうしてみると、技術的な或いは経済的な先進国は確かに日本や欧米各国かもしれないが、心の先進国はカンボジアのように貧しいといわれている国々なのではないだろうか。私たちは、言葉を話し、複雑な感情を持ち、コミュニケーションをとる人類の一員として、この先進むべき未来はどうあるべきなのかをもう一度考えてみるべきではないかと思った。

(4年 山下海州)



現地の子どもの交流

カンボジア 体育を教える活動



2014年に「カンボジア サービス・ラーニング研修」をスタートさせてから、本校生徒にはカンボジアの皆さんとの交流の機会がたくさんあります。今回は2人の生徒が「カンボジア 体育を教える活動」に参加し、カンボジアの子供たちと楽しい時間を過ごし、多くのことを学んできました。

2017年3月25日から31日まで、私はカンボジアのスレエン小学校での体育を教える活動に参加しました。活動内容は、村の小学校に行き、教師不足から体育の授業を受けられない子供たちに、高校生の私たちが準備体操を教え運動会を行うというものです。カンボジアはポルポトの時代に知識人たちが次々と殺されてしまい、それが今に繋がっていて教師が足りず、体育の授業ができない



とのことでした。子供たちの吸収力は非常に高く、何かを教えるとすぐにできるようになりました。運動能力も高く、体育の授業がないことが本当にもったいないと思うばかりでした。

子供たちとの交流は、初めは不安ばかりでしたが、交流し始めるとそんなことは気にならないくらい仲良くなり、楽しい時間が持てました。子供たちの目や笑顔は本当にまっすぐで汚れないキレイなものです。私はこの活動で、幸せはお金があることではなく、「人々が毎日笑顔で暮らせること」だと学びました。カンボジアの子供たちは世界で一番素敵な笑顔の持ち主です。

3年後に同じメンバーで行く再訪ツアーが予定されています。その時には、今回の経験を活かし、改善をして、子供たちに会いに行きたいと思っています。

(5年 川ノ邊星子)



カンボジアからの留学生帰国

2016年4月から本校で学んでいたカンボジアからの留学生ムニー君とソックリンさんが、2017年3月20日、大勢の友達に見送られて羽田より帰国しました。2人も日本語もかなり上達し、楽しく充実した1年間を送ることができました。

2人も初めは生活の違いに驚いたようです。カンボジアでは学校の授業は半日だけ。通学はバイクです。(カンボジアでは、近所だったらバイクの免許は不要というルールがあり、通学にバイクを使う生徒も多くいます。3人乗り・4人乗りも普通です!) 気温は40度近くになりますがもちろんエアコンはありません。2人も、日本の生活がカンボジアに比べ大変便利であること、春の桜の美しさや明かりの多いきれいな街の夜景に感動していました。

日本の天気、食べ物、そして新しいファミリーとの生活と、慣れないことも多く苦労はしましたが、とても親切にいただいたと感謝していました。以下、修了式でのあいさつからの抜粋です。

ムニー君：「最しよに日本にきたばかりのとき、

分からないことやなれないことがおおく、みんなにめいわくをおかけしましたが、ほんとうにしんせつにしてくださいました。とってもあたたかい気持ちだとおもいました。とってもうれしかったです。(中略) ホストfamilyとのせいかつはともたのしかったです。かれらはとってもやさしい人です。かれらは私に日本語を教えてくれたり、日本の文化を教えてくれたり、わたしとあそびにいくじかんをつくってくれたり、とくにかれらはわたしにあたたかい気持ちをくれました。私はこんなひとに会って、ほんとうにうれしくて、とってもありがたいです。」

ソックリンさん：「私のホストファミリーのみなさんはとてもやさしい人です。毎日お母さんが私にお弁当を作ってくれるし、いろいろお世話になりました。とても親切な人です。また学校で授業がちょっと難しかったけれども、でも最後までよく頑張ることができました。一度も学校を休まなかったです。いつも応援してくださったみんなや先生に心から感謝します。どうもありがとうございました。1年間学校から本当に暖かい心もらえました。」

これからの2人の目標

ムニー君

「私は日本語がペラペラになるまでべんきょうするつもりです。また日本に来たいとおもいます。将来になにになりたいかわからないけれども日本ではたらきたいゆめをもっています。」

ソックリンさん

「カンボジアへ帰っても日本語をもっと勉強するつもりです。大学生になったらまた日本へ留学に来たいと思います。将来のお仕事は日本の関係で働きたいです。頑張ります。」



本校が毎年行っている「カンボジア サービス・ラーニング研修」で生徒たちと交流をしていた2人ですので、これからも日本とカンボジアの懸け橋として、さらなる活躍をみせてくれることでしょう。期待しています!

笑顔で記念品を手にするムニー君とソックリンさん

Olive Junior マンツーマンレッスン スタート!

2014年度から実施している校内英会話教室「Olive Junior」に今年度からマンツーマンレッスンが加わり、更にグレードアップしました。放課後の時間を有効に使い、生徒たちは英語コミュニケーション力をアップさせています。講師は慶應義塾大学や横浜国立大学の大学院で学ぶ留学生で、本校のショーン先生がカリキュラムを作りマネージメントしています。オランダ、ナイジェリア、マレーシア、カンボジア、アルゼンチンなど世界各国からの留学生の先生と「英語をツールとして世界中の人々とつながろう!」と、生徒たちは楽しく英会話を学んでいます。



海外大学進学説明会



テイラーズ大学レイクサイドキャンパス

小学生のための英会話教室「KGM Kids English」スタート!

小学生の皆さんが本校のGET(グローバル・イングリッシュ・ティーチャー)と一緒に楽しく英語を学び、未来に向けてそれぞれの世界を広げてもらおうと、今年度から土曜日の午後「KGM Kids English」をスタートしました。年間16回で、1回の受講料500円のワンコインレッスンです。ぜひご参加いただき、本校の英語の授業に少しでも触れていただきたいと思います。



夏休みの「KGM Kids Summer English」、クリスマスの時期に行く「KGM Kids Christmas English」も昨年に引き続き実施します。小学生の皆さん、お楽しみに!!

インドの学校「Father Agnel Multipurpose School and Junior College」との交流会

5月23日、インドから Father Agnel Multipurpose School and Junior College の皆さんが来校し、本校生徒たちと交流会を持ちました。ニューボンベイにあるカトリック系の男女共学校で、小学校から高校まで一貫教育を行っている私立学校です。今回は10歳から19歳までの生徒さん30人が本校を訪問し、授業に参加したり、剣道・弓道・茶道などの日本ならではの部活動を体験したりと、短い時間でしたがKGMでの体験を楽しんでくださいました。



本校もインドの学校との交流会は初めてで、生徒たちにはとても貴重で素晴らしい機会となりました。

5月16日にハワイのカピオラニ・コミュニティカレッジについて、5月24日にオーストラリアのメルボルン大学について、それぞれの大学の方にお越しいたげて説明会を行いました。7月20日には生徒・保護者対象の海外大学進学全般についての説明会を実施します。

今や進路決定においてごく普通の選択肢となった海外大学。本校でもオーストラリアのグリフィス大学、アメリカのUCLA、台湾の開南大学や静宜大学など、多くの生徒が海外の大学に進学しています。今回の説明会では、「グローバルセミナー・台湾の大学進学について」「アメリカやオーストラリア等の大学進学とnavitasの制度」、そして「ハワイのカピオラニ・コミュニティカレッジやマレーシアのテイラーズ大学への進学」についてお話しします。

カピオラニ・コミュニティカレッジは、多くの学生がハワイ大学マノア校に編入するハワイ大学への公式入学窓口になっている学校です。ハワイ大学に編入しない場合には、関東学院大学へ編入することもできます。

テイラーズ大学はマレーシアの総合大学で、今回、経営について実践的に学ぶビジネス、テイラーズ大学で2年間学んだあとアメリカの大学に転学して2年間学ぶADTP(アメリカン・ディグリー・トランスファー・プログラム)、世界のトップ30にランクインするホスピタリティの3つの学部の指定校推薦をいただきました。さらなるグローバル化が進む社会。生徒達にはぜひ世界に飛び出し、各自の学びを広くそして深く追求してほしいと思います。

今年度マレーシアのテイラーズ大学から、インターンとしてサマンサ先生が本校に来てくださいました。1年間、英語の授業やOlive Junior、国際センターを手伝ってくださいます。



Hello, I'm Samantha! My home country is Malaysia. I am currently in university studying to be a teacher. In Malaysia, there are communities that still don't have access to education, so I hope to close that gap in the future. For now, I am doing my internship in Japan as an Assistant Language Teacher. At KGM, I have met many great teachers who show me many things about education. I also love how friendly the students are! English education here is special because of the Olive Junior program, English lunch lounge, English camps and many language events! I have 9 months left at KGM, but I know one thing for sure: there is no other school that I would have liked to serve and learn from.

校長先生のメッセージ

< 社会の「発展プロセスの中で育つ」を眺めること >

関東学院六浦は2014年からグローバル人材の育成を教育の目標に掲げてきました。生徒たちが社会で活躍する10、20年後の未来社会を考え、明日への準備が確かに未来の道となるように、様々なプログラムを有機的に配置してきています。

中学2、3年次での地球市民講座(学校設定科目)では教科横断的に世界の現状を学びます。成熟度と適性や指向性で選ぶ参加型として、様々な体験型のプログラムが国内外に準備されています。「感性が柔軟なうちに気付きを多くする」ことが重要だからです。

本物による体験、現地での実学的な経験を教学の仕掛けに組み込むねらいは、それまでに学んだこと、感じたこと、机上で体験してきたことを現実による「経験」へと変えてゆくことにあります。そして、その経験の中から自分の将来の道を今と結んでリアルに探りだすこと、それも、奉仕する人としての生きる力を育てることへの繋がりにあります。

カンボジアのサービス・ラーニングでは、勢いよく伸びている社会の中で遅く生きる未来の世代との交流をします。生活環境をはじめあらゆるインフラが整っている豊かさで欠乏を知らずに育った日本の子どもとして、個人が努力することと、その努力が、協働する力として社会を創る可能性そのものであることを実感してきます。帰国後は、自分たちの勉強の中で照らすべき視座が、新たに切り開かれるのです。

Go! Globalは、実のある教学プログラム、関東六浦のオリジナル教育です。

関東学院六浦中学校・高等学校
校長 黒畑 勝男